

## イ. 整備計画

西曲輪の北柵形虎口に伴う馬出は、遺構を損なうことなく保護するとともに、来場者が当時の状況を体感し、活用に資することを目的に遺構表現を行う。土塁・堀・平場は、発掘調査を実施し、将来の整備に必要な資料収集を行う。

馬出の整備対象時期は最終段階に近いものとするが、重複する武田期の堀は来場者が実態を理解できる方法を目指す。



味噌曲輪整備計画平面図 S=1:1000

### ① 馬出の整備

角馬出と堀の整備について、次の方法を比較検討する。

A：角馬出の石塁を修理・復元

堀は石塁と重複しない部分を平面表示

B：角馬出の石塁・堀について、発掘調査による出土状況を疑似的に表現

C：角馬出・堀の整備はAとし、地形模型により武田期の復元形を屋外展示

D：角馬出の石塁を修理・復元（大手門東史跡公園と同様）

堀は解説板により情報提供

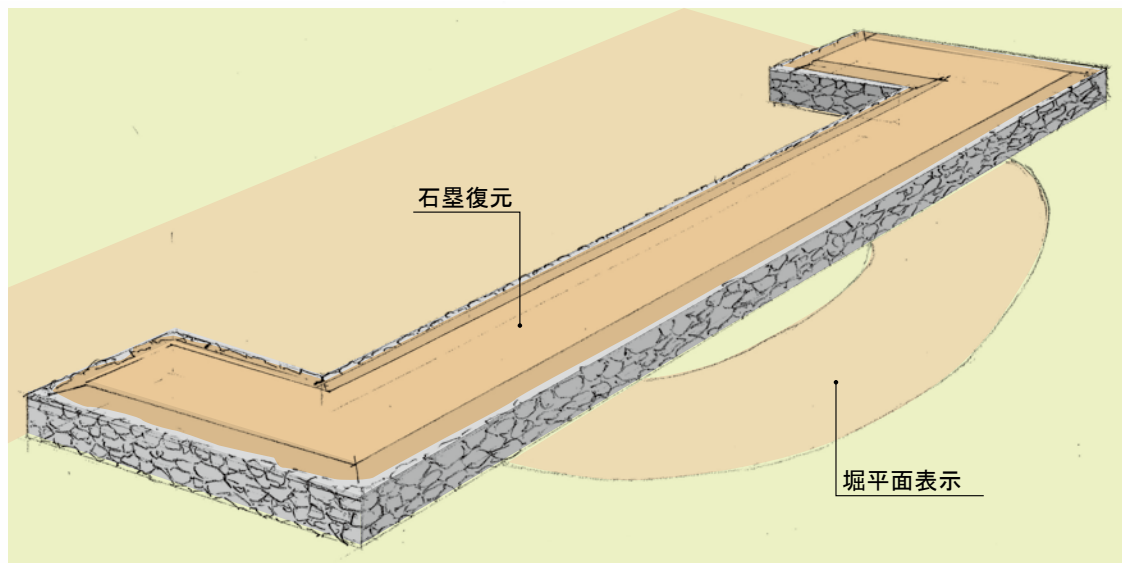
その他、それぞれの方法に共通する事項として、解説板やAR・VRによる補足的な解説を付す。

以下に、それぞれの利点と問題点や課題について比較する。

#### 整備方法の検討

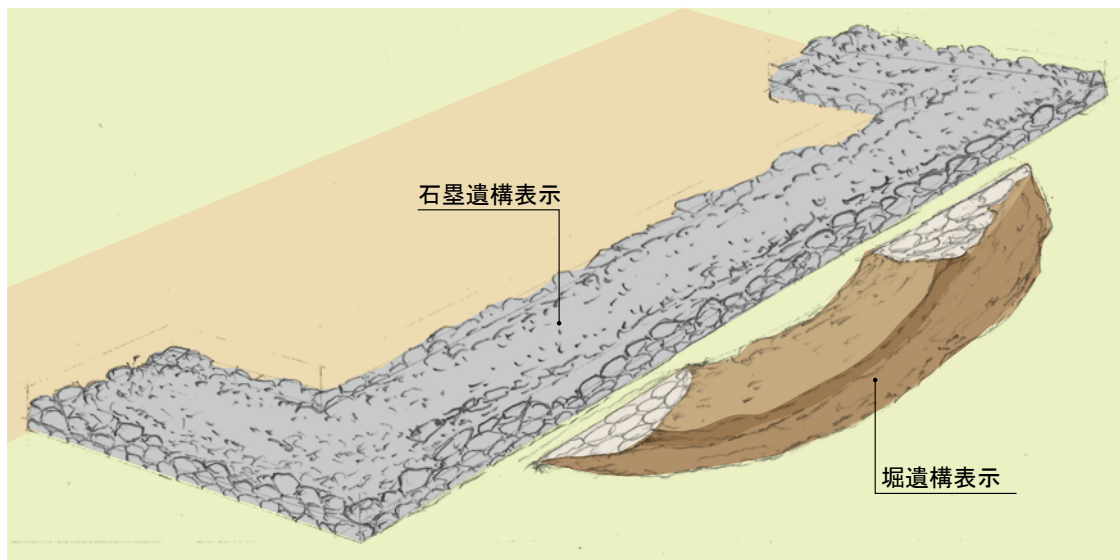
| 整備方法 |                 | 利点                               | 問題点・課題                   |
|------|-----------------|----------------------------------|--------------------------|
| A    | 角馬出：修理・復元       | ・角馬出は復元でき、堀・土塁や建物跡等の整備対象時期と一致する。 | ・堀の表現が限定的で、形状や機能が十分伝わらない |
|      | 堀：平面表示          | ・整備方法として無理がない                    |                          |
| B    | 角馬出：発掘状況        | ・出土した状況の展示であり、整備対象時期の不整合が解消される。  | ・復元形状の表現は解説板等で補う必要がある    |
|      | 堀：発掘状況          | ・石塁の変遷過程を展示できる。                  | ・遺構保護の工法は慎重に検討する必要がある    |
| C    | 角馬出：修理・復元       | ・西曲輪北柵形虎口と丸馬出の関係が理解しやすい          | ・堀の実際の大きさを体験できない         |
|      | 堀：平面表示<br>+野外模型 | ・整備方法として無理がない                    |                          |
| D    | 角馬出：修理・復元       | ・大手門周辺整備と同様の手法となる                | ・堀の実態が十分に伝わらない           |
|      | 堀：解説板による        | ・整備方法として無理がない                    |                          |

A：角馬出の石塁を修理・復元



武田期の堀は石塁と重複しない部分を平面表示  
石塁は、残存石積みを修復し、遺失した部分を復元する。

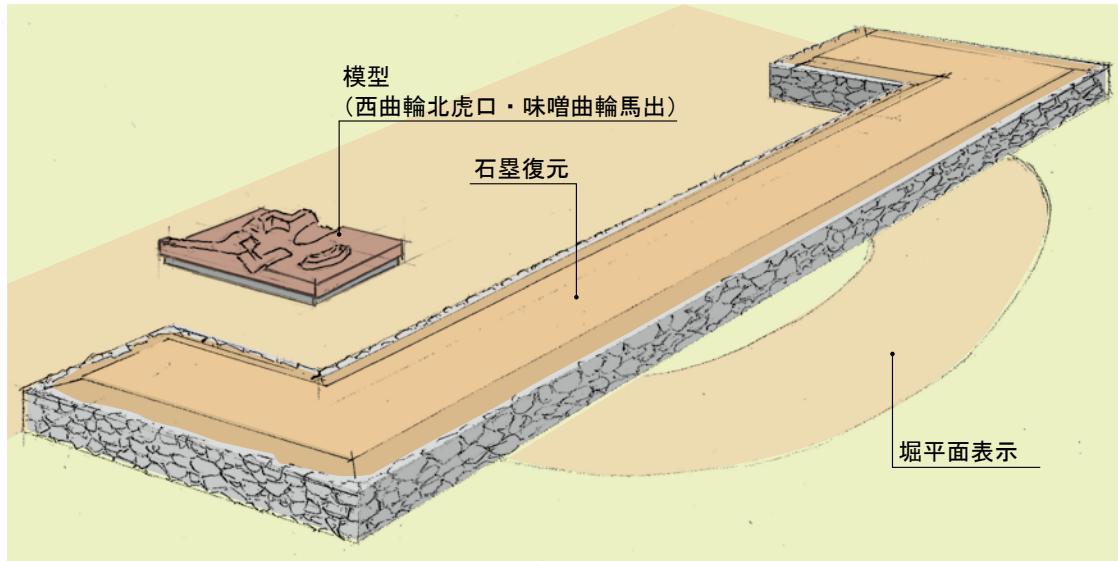
B：角馬出の石塁・武田期の堀について、発掘調査による出土状況を疑似的に表現



石塁は発掘調査時の状況に応じて不安定な箇所は修理し、背面土や裏込め保護のために1～2段程度の築石を補足する。また背面は保護層で覆う。

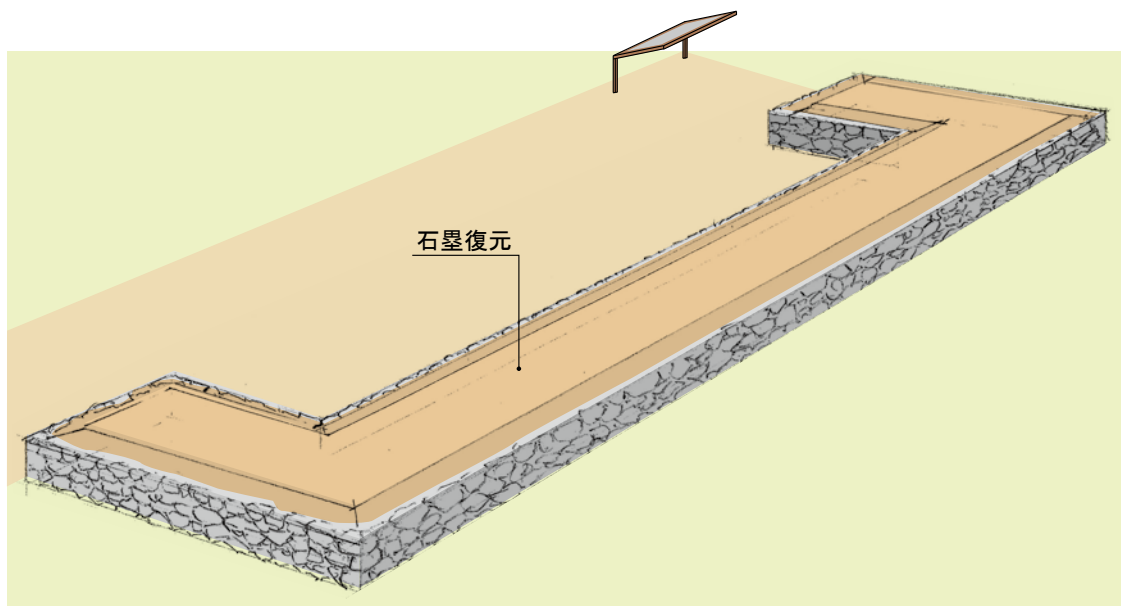
堀は遺構面を不織布等で保護の上、浸透排水層として細粒碎石を設け、表面は土系舗装材等とする。

C：角馬出・堀の整備はAとし、地形模型により武田期の復元形を屋外展示



野外模型は西曲輪の北柵形虎口から堀までの範囲とし、1/15～1/20程度の縮尺で迫力のあるものとする。模型の素材は対候性のある焼物やブロンズ、あるいは表現性の豊かなFRP等を検討する。

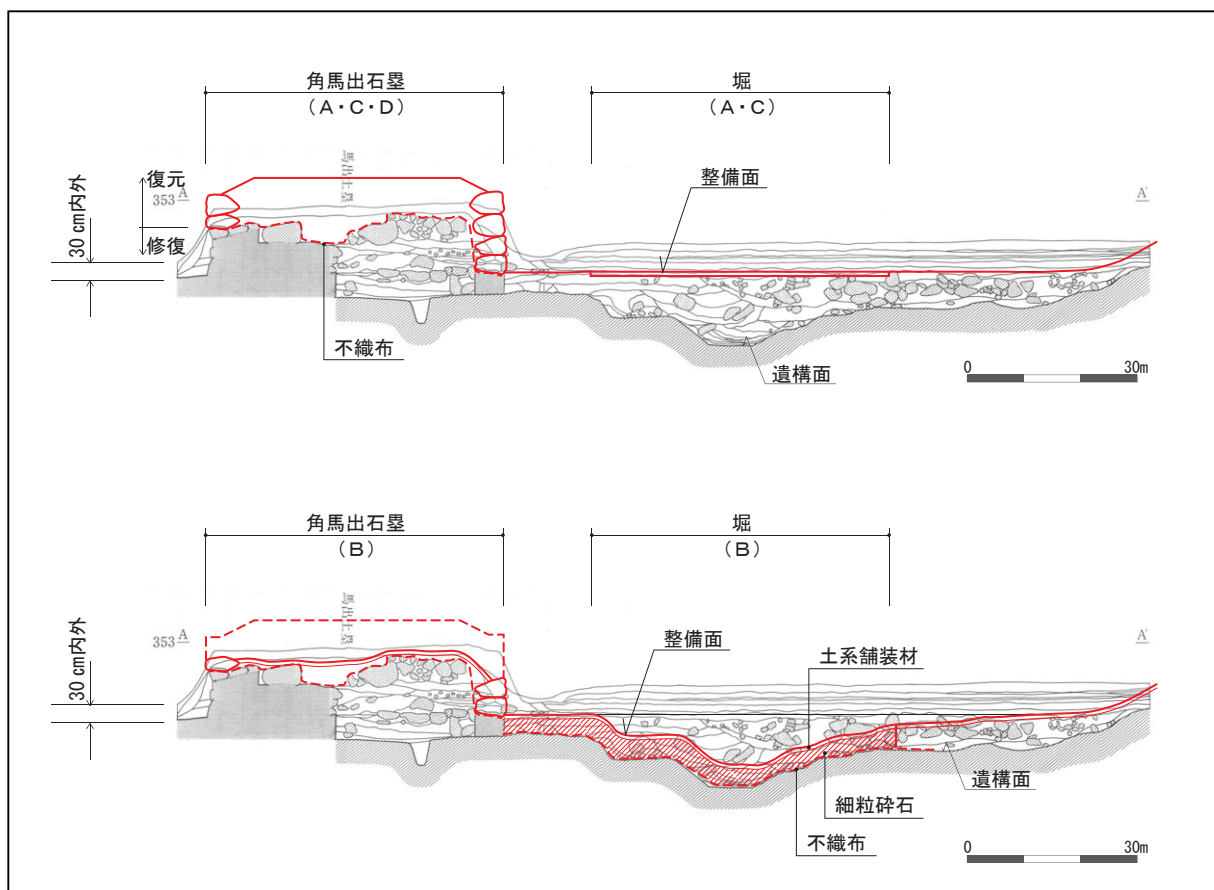
D：角馬出の石塁を修理



石塁は、残存石積みを修復し、遺失した部分を復元する（Aに同じ）。

堀は現地では表現せず、解説板等での情報提供で補う。

大手門周辺整備（大手門東史跡公園）と同様の手法となるが、武田期と織豊期の重層する遺構の理解を助けるデジタルコンテンツ等の利用を検討する。



断面検討模式図 S=1:400

## ウ. 造成・排水計画

### ・ 造成

遺構保護対策として、整備地盤面は遺構検出面から 30 cm以上の保護層を確保する。

造成等の工事に用いる建設機械は遺構に影響を与えない規模のものを選定することや、必要に応じて敷鉄板等の養生を行う。

### ・ 排水

主郭・西曲輪間の堀に雨水が溜まり土橋を越流する要因の一つとして、北側の各曲輪よりもさらに上流からの表流水がある。この状況を改善するため、味噌曲輪内の排水は整備に伴う造成において西曲輪北馬出の西へ排水勾配をとることや、必要に応じて排水路の整備を検討する。

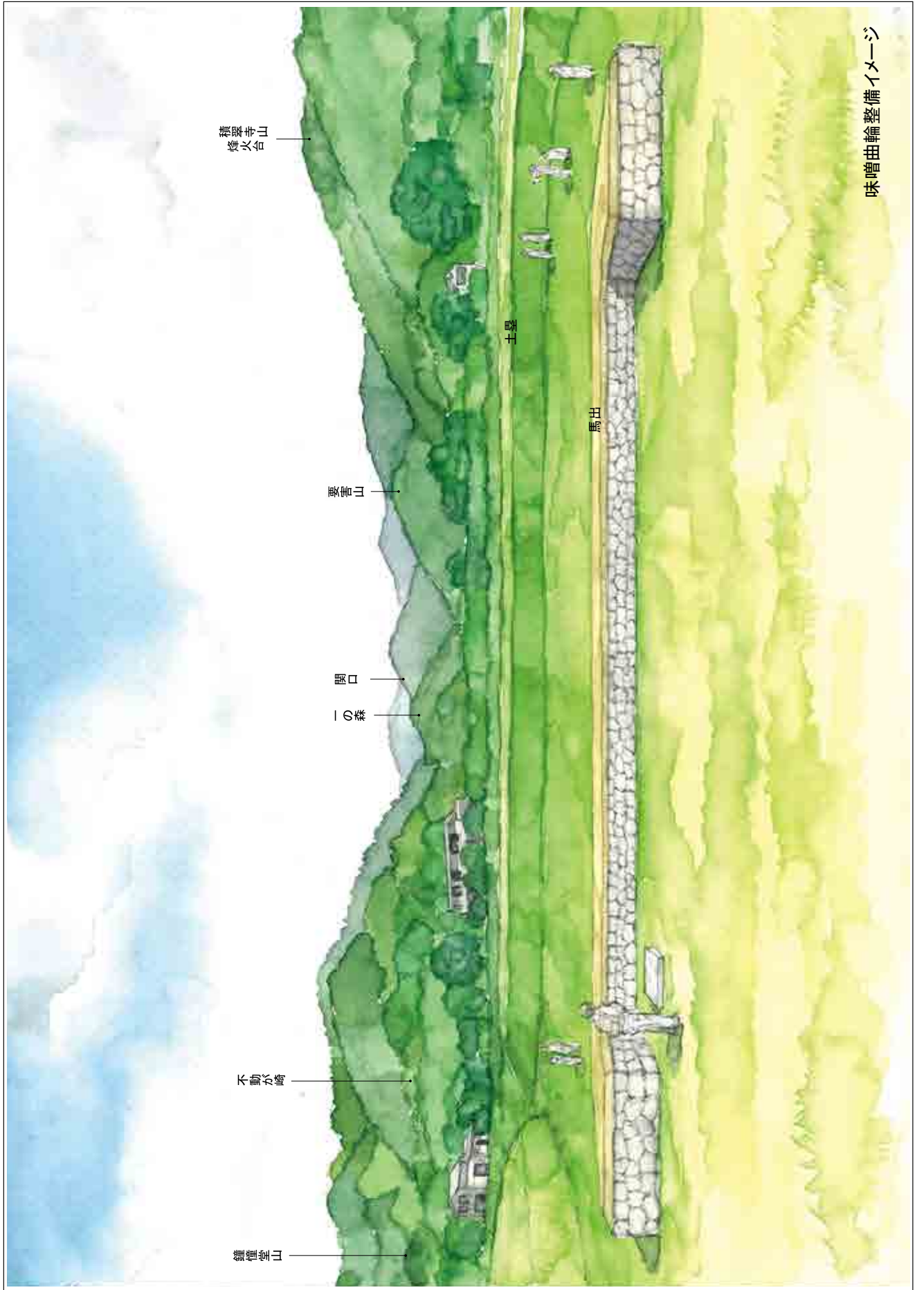
無名曲輪や御隠居曲輪周辺からの排水は当面現状維持とし、将来の本格整備の際に主郭東側の堀に排水すべく検討する。

排水環境は予測し難いことも多いので、状況に応じて慎重に対応していく。

## エ. 建物跡等の整備（将来計画）

本計画では曲輪内の発掘調査を進める。将来計画において、今後発見されるであろう建物跡や、井戸、石列、溝跡等について、変遷過程と性格を明らかにし、復元や表示等を検討する。

建物跡の一棟については、北側の各曲輪の求心性を創出するものとして復元的整備とし、将来的に休憩や展示施設として活用を検討していく。



味噌曲輪整備イメージ